

2024 年度 授業評価アンケート

1. 授業評価アンケート(学部)

1-1. アンケート概要

学部における授業改善に向けて2004年度から学部生を対象とした個別の授業に対する授業評価アンケートを実施している。調査概要と実施状況は以下のとおりである。

【概要】

(1) 調査目的

「武蔵大学ファカルティ・ディベロップメント委員会規程(平成 21 年4月 16 日制定)」に基づき、学部の教育活動の組織的改善に資する取組みとして、学部授業評価アンケートを実施。

(2) 調査対象

武蔵大学に在籍している学部生(ただし、休学、留学中の学生を除く)。

(3) 調査方式

学内ポータルサイト(3S)より回答。

(4) 設問項目

次ページを参照

(5) 実施期間

[Spring1科目] 2024年5月20日(月) ～ 2024年5月31日(金)

[春学期・Spring2科目] 2024年7月1日(月) ～ 2024年7月19日(金)

[秋学期・Autumn1・Autumn2科目] 2024年12月2日(月) ～ 2024年12月20日(金)

(注)春学期の数字には Spring1・Spring2 科目及び春学期科目が含まれている

秋学期の数字には Autumn1・Autumn2 科目及び秋学期科目が含まれている。

- 本アンケートは、授業を改善し、さらに充実させることや教育改善を目的に実施するものです。
- 回答内容が成績評価に影響を与えることは決してありません。
- 担当教員は、集計された結果のみを見ますので、学生一人ひとりの回答を見ることはありません。
- 授業をより良いものにするという意識のもとに、素直かつ責任をもって回答してください。
- 自由記述欄の回答が、担当教員に対する人権侵害等にあたる内容を含むと判断される場合は、事務局により個人を照会の上、しかるべき対応をとります。
- プライバシー保護のため、自由記述の記入内容に関しては授業担当者へ直接伝えることはせず、大学として今後の授業改善の参考とします。
- 設問の一部はベストティーチャー賞の選定に用います。

※必須設問をすべて回答しないと送信できませんが、回答中の一時保存は可能です。また、回答済みの授業評価でも、実施期間中であれば何度でも修正することができます。

【Ⅰ】この授業のあなたの取り組みについて、以下の項目にどの程度当てはまりますか？

1. この授業はシラバスに沿って行われていましたか？（必須）

- 強くそう思う まあそう思う どちらともいえない あまりそう思わない 全くそう思わない

2. あなたはこの授業に関して、予習・復習など授業外での取り組みを1週間でどのくらい行ないましたか？（必須）

- 4時間以上 4時間未満～3時間以上 3時間未満～2時間以上
 2時間未満～1時間以上 1時間未満 全くしなかった

【Ⅱ】この授業の内容について、以下の項目にどの程度当てはまりますか？

1. 総合的にみて、この授業は満足できた（必須）

- 強くそう思う まあそう思う どちらともいえない あまりそう思わない 全くそう思わない

2. 授業内容を理解できた（必須）

- 強くそう思う まあそう思う どちらともいえない あまりそう思わない 全くそう思わない

3. 授業内容に興味を持てた（必須）

- 強くそう思う まあそう思う どちらともいえない あまりそう思わない 全くそう思わない

4. 授業の進行速度は適切だった（必須）

- 強くそう思う まあそう思う どちらともいえない あまりそう思わない 全くそう思わない

5. 教員は質問や問い合わせに適切に対応してくれた（必須）

- 強くそう思う まあそう思う どちらともいえない あまりそう思わない 全くそう思わない
 質問や問い合わせをしなかった

6. この授業を特に優れた授業として他の学生に勧めたい（必須）

- 強くそう思う まあそう思う どちらともいえない あまりそう思わない 全くそう思わない

7. 「自ら調べ自ら考える」ことが楽しくなった（必須）

- 強くそう思う まあそう思う どちらともいえない あまりそう思わない 全くそう思わない

【Ⅲ】あなたはこの授業を受けることで、以下の知識・能力・態度が身につきましたか？

1. 深い教養・幅広い知識（必須）

- とても身についた まあ身についた どちらともいえない あまり、身につかなかった
 全く身につかなかった 該当しない

2. 専門的知識（必須）

- とても身についた まあ身についた どちらともいえない あまり、身につかなかった
 全く身につかなかった 該当しない

3. 主体的な学習態度（必須）

- とても身についた まあ身についた どちらともいえない あまり、身につかなかった
 全く身につかなかった 該当しない

4. 批判的な学習態度（必須）

- とても身についた まあ身についた どちらともいえない あまり、身につかなかった
 全く身につかなかった 該当しない

5. 共感力（必須）

- とても身についた まあ身についた どちらともいえない あまり、身につかなかった
 全く身につかなかった 該当しない

6. 対話力（必須）

- とても身についた まあ身についた どちらともいえない あまり、身につかなかった
 全く身につかなかった 該当しない

7. グローバルな思考力（必須）

- とても身についた まあ身についた どちらともいえない あまり、身につかなかった
 全く身につかなかった 該当しない

8. 外国語運用能力（必須）

- とても身についた まあ身についた どちらともいえない あまり、身につかなかった
 全く身につかなかった 該当しない

9. 学びを活用する実践力（必須）

- とても身についた まあ身についた どちらともいえない あまり、身につかなかった
 全く身につかなかった 該当しない

【Ⅳ】自由記述

この授業に対する、良かった点・改善を要する点、何か意見等がありましたらお書きください。

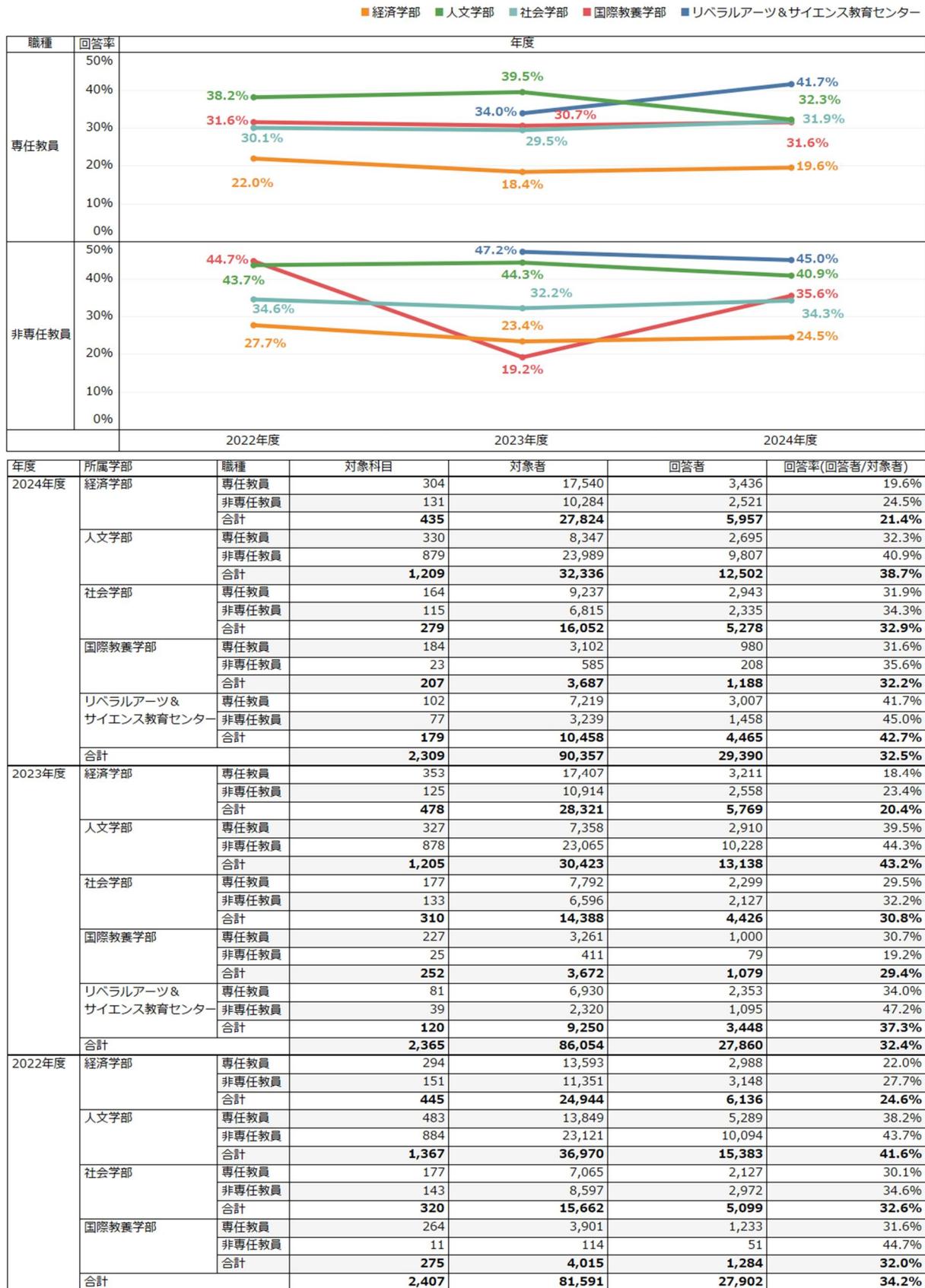
※ただし、誹謗中傷は避けて回答してください。

※回答が、担当教員に対する人権侵害等にあたる内容を含むと判断される場合は、個人を照会の上、しかるべき対応をとります。

※プライバシー保護のため、自由記述の記入内容に関しては授業担当者へ直接伝えることはせず、大学として今後の授業改善の参考とします。

1-2. アンケート回答率

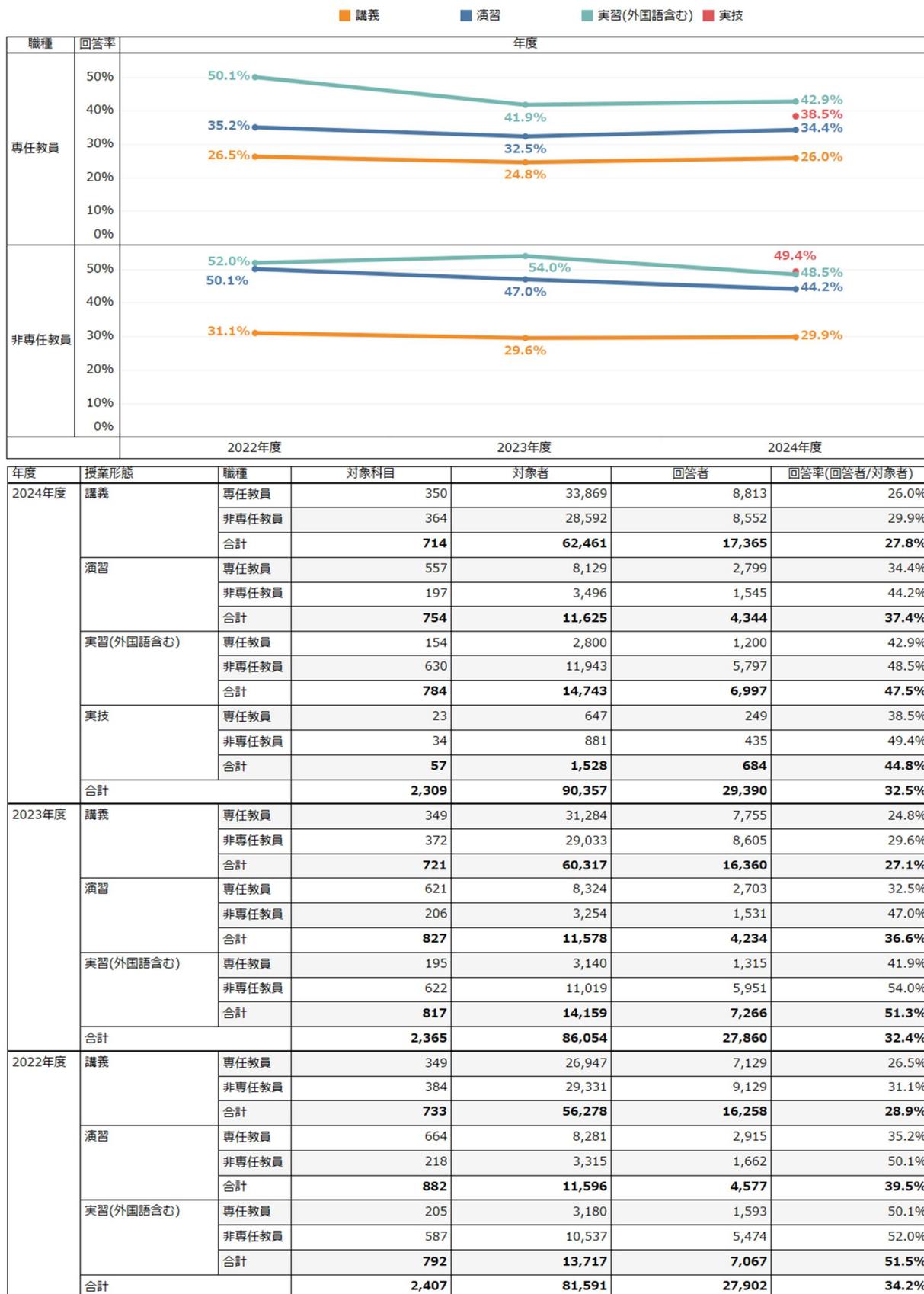
以下は2024年度に実施した授業評価アンケートの教員所属・職種別の回答率である。



2024年度の回答率を教員所属別にみるとリベラルアーツアンドサイエンス教育センターが最も高く42.7%となっている。

また、教員所属・職種別に見ると、専任教員及び非専任教員ともに、リベラルアーツアンドサイエンス教育センターが最も高くそれぞれ専任教員41.7%、非専任教員45.0%となっている。

以下は授業評価アンケートの授業形態・職種別の回答率である。



2024年度の回答率を授業形態別にみると実習(外国語含む)が最も高く47.5%となっている。

また、教員所属・職種別にみると、専任教員は実習(外国語含む)最も高く42.9%となっており、非専任教員は実技が最も高く49.4%となっている。

1-3. アンケート集計結果及び考察

ここでは 2024 年度に実施した授業評価アンケートに基づき、設問ごとに授業評価アンケートの集計結果及び考察を示す。分類方法は以下の通り。

- ・【総合科目】講義／演習／実技
- ・【外国語科目】実習
- ・【経済学部科目】講義／演習
- ・【人文学部科目】講義／演習／実習
- ・【社会学部科目】講義／演習
- ・【国際教養学部科目】講義／演習／実習
- ・【国際関連科目】講義／演習／実習
- ・【教職・学芸員科目】講義／演習

※経済学部、社会学部、教職・学芸員科目の実習は回答がなかったため、分類をしていない。

【I. 授業への取組状況】

I-1. この授業はシラバスに沿って行われていましたか？

「強くそう思う」「まあそう思う」と回答した割合が全ての科目分類・授業形態において、85%を超えておりシラバスに沿った授業が展開されているといえる。

I-2. あなたはこの授業に関して、予習・復習など授業外での取り組みを1週間でどのくらい行ないましたか？

全体として「1時間未満」と回答した割合が高い結果となった。授業形態別にみると、講義科目よりも演習科目及び実習科目の方が授業外学修時間が長い傾向がある。

【II. 授業評価】

II-1. 総合的にみて、この授業は満足できたか

「強くそう思う」「まあそう思う」と回答した割合が、多くの科目分類・授業形態において 80%を超える結果となった。特に総合科目の実技科目では「強くそう思う」の割合が 75%を超えており非常に高い数値となっている。また、全体として講義科目よりも演習科目、実習科目及び実技科目の方が満足度が高い傾向がある。

II-2. 授業内容を理解できた

「強くそう思う」「まあそう思う」と回答した割合が、国際関連科目の実習科目を除いた全ての科目分類・授業形態において 75%を超える結果となった。ただし、国際関連科目の実習科目では回答者数が少ないものの「強くそう思う」「まあそう思う」の割合が他の科目分類・授業形態と比較すると低い傾向があるため、注意が必要である。

II-3. 授業内容に興味を持てた

「強くそう思う」「まあそう思う」と回答した割合が、全ての科目分類・授業形態において 70%を超えるという高い結果となった。特に、総合科目の実技科目において「強くそう思う」と回答した割合が高く、75%弱という高い数値となった。

II-4. 授業の進行速度は適切だった

全体として「強くそう思う」「まあそう思う」と回答した割合が高く、全ての科目分類・授業形態において 80%を超える結果となった。特に国際教養学部の実習科目に関しては「強くそう思う」の割合が 70%を超えており、非常に高い値となっている。一方、経済学部及び社会学部の講義科目に関しては、その他の科目分類・授業形態と比較すると「強くそう思う」「まあそう思う」の割合が低い傾向があるため注意が必要かもしれない。

II-5. 教員は質問や問い合わせに適切に対応してくれた

全体として「質問や問い合わせをしなかった」と回答した割合が高い結果となった。一方で、国際教養学部は全ての授業形態において、その他の科目と比較し、「質問や問い合わせをしなかった」と回答した割合が低い傾向がみられ、教員に対し質問や問い合わせをする学生が多かったことがわかる。

また、授業形態別で見ると、講義科目よりも演習科目の方が「強くそう思う」「まあそう思う」と回答した割合が高い傾向が見られる。演習科目の多くは少人数で実施されるため、教員に対する距離が近いことが理由に挙げられるかもしれない。

II-6. この授業を特に優れた授業として他の学生に勧めたい

全体として「強くそう思う」「まあそう思う」と回答した割合が高い結果となった。科目分類別で見ると、総合科目の実技科目及び国際教養学部の実習科目において、「強くそう思う」「まあそう思う」と回答した割合が他と比べて高くなっており、90%を超えている。また、全体として講義科目よりも演習科目の方が「強くそう思う」「まあそう思う」と回答した割合が高い傾向が見られる。

II-7. 「自ら調べ自ら考える」ことが楽しくなった

全体として「強くそう思う」「まあそう思う」と回答した割合が高い結果となった。科目分類別で見ると、人文学部及び社会学部の演習科目において、「強くそう思う」「まあそう思う」と回答した割合が他と比べて高くなっており、85%を超えている。また、全体として講義科目よりも演習科目の方が「強くそう思う」「まあそう思う」と回答した割合が高い傾向が見られる。演習科目は講義科目よりも授業外学修時間が長いことが理由に挙げられるかもしれない。

【Ⅲ. 身についた知識・能力・態度】

Ⅲ-1. 深い教養・幅広い知識

全体として「とても身についた」「まあ身についた」と回答した割合が高い結果となった。総合科目の実技科目では「該当しない」と回答した割合が高く授業の特性によるものだと考えられる。

Ⅲ-2. 専門的知識

科目分類別にみると、演習科目の方が、講義科目及び実習科目より「とても身についた」「まあ身についた」と回答した割合が高い傾向が見られる。一方で国際教養学部及び教職・学芸員科目に関しては、講義科目の方が演習よりも「身についた」と回答した割合が高い。

Ⅲ-3. 主体的な学習態度

一部の科目分類を除き、全体として演習科目の方が講義科目及び実習科目よりも「とても身についた」「まあ身についた」と回答した割合が高い傾向が見られる。演習科目はグループワーク等が取り入れられるという科目の性質が影響しているかもしれない。また、社会学部の演習科目については「とても身についた」「まあ身についた」と回答した割合が93.7%となっており非常に高い値である。

Ⅲ-4. 批判的な学習態度

全体として、演習科目の方が講義科目・実習科目よりも「とても身についた」「まあ身についた」と回答した割合が高い傾向が見られる。また、教職・学芸員科目の演習科目においては、「とても身についた」「まあ身についた」と回答した割合が90%を超えており非常に高い数値となっている。

Ⅲ-5. 共感力

経済学部の講義科目において、「とても身についた」「まあ身についた」と回答する割合が50%を下回っている。講義科目の性質かもしれないが、今後も注視していく必要があるかもしれない。

一方で、社会学部の演習科目は「とても身についた」「まあ身についた」と回答する割合が85%を超えており非常に高い数値となっている。

Ⅲ-6. 対話力

全体として、「とても身についた」「まあ身についた」と回答する割合が演習科目と講義科目で大きく差がある結果となった。経済学部及び社会学部の講義科目では「とても身についた」「まあ身についた」と回答する割合が30%を下回っている。講義科目は演習科目の様にグループワークを導入している科目が少なく、対話をする機会が少ないことが影響しているかもしれない。

Ⅲ-7. グローバルな思考力

全体として、国際教養学部の科目において、「とても身についた」「まあ身についた」と回答する割合が最も高い結果となった。これは、国際教養学部は英語による授業が多く展開されていることが影響していると考えられる。

Ⅲ-8. 外国語運用能力

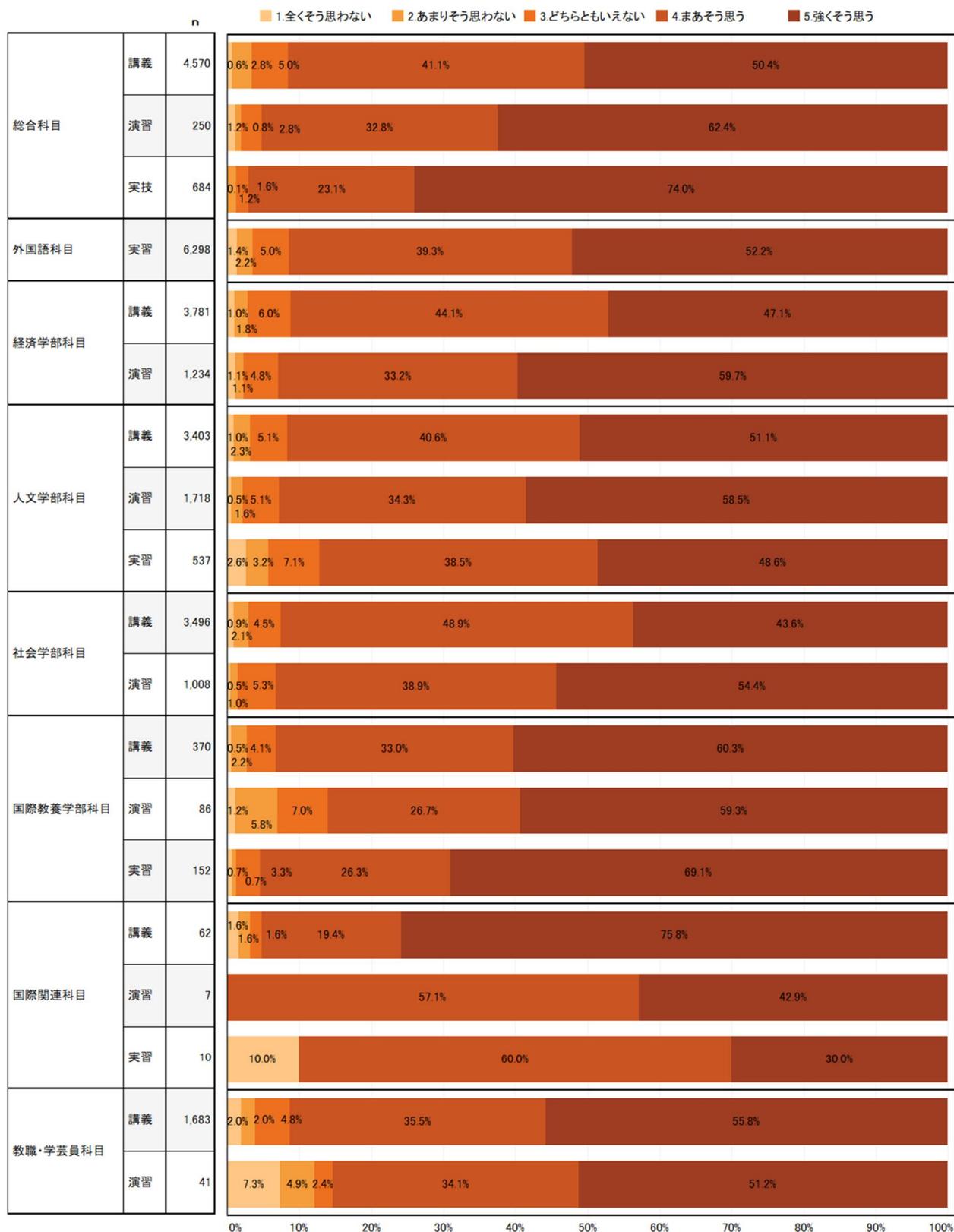
全体として、国際教養学部の科目において、「とても身についた」「まあ身についた」と回答する割合が非常に高くなっている。これは、設問Ⅲ-7と同様に国際教養学部は英語による授業が多く展開されていることが影響していると考えられる。

Ⅲ-9. 学びを活用する実践力

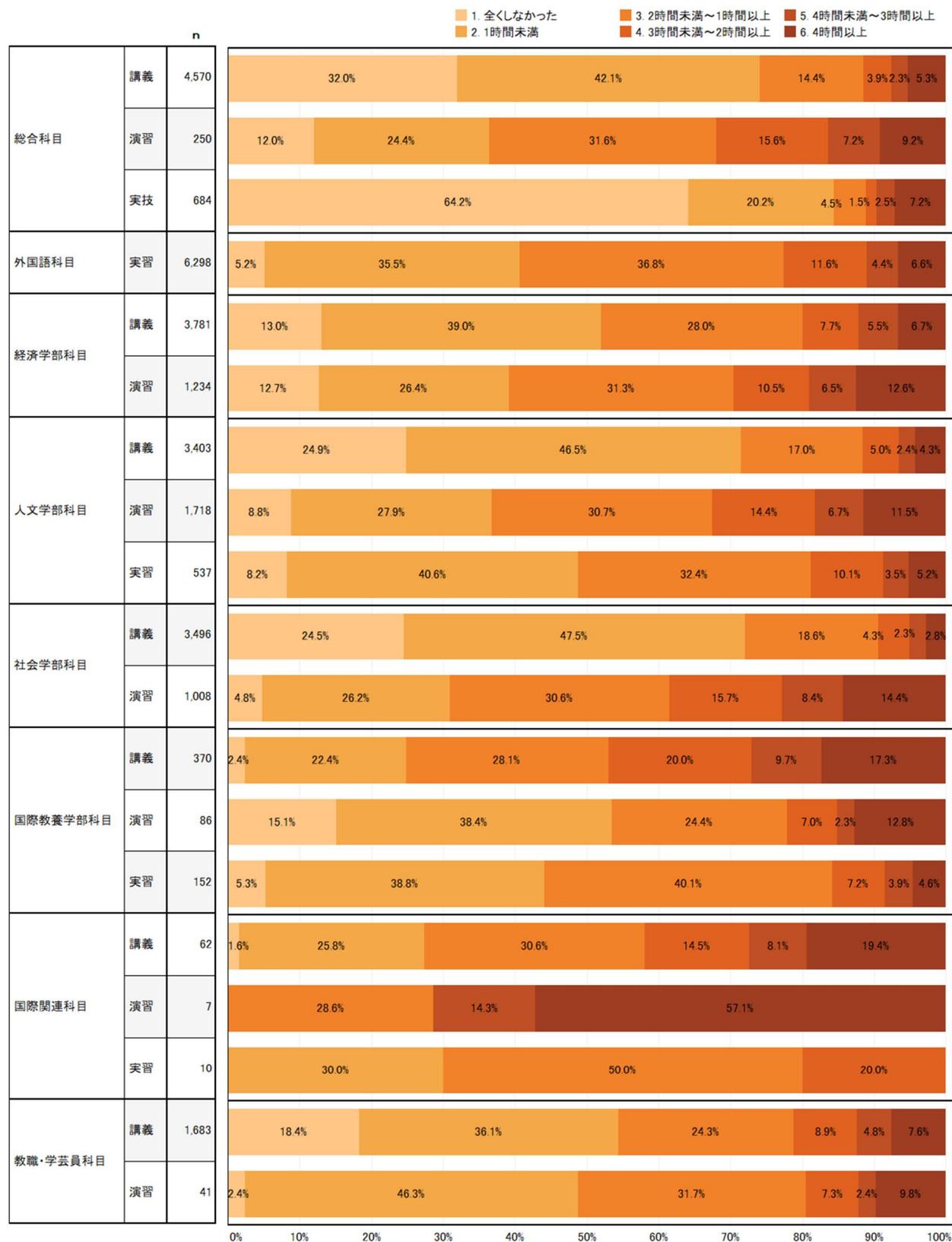
全体として演習科目の方が講義科目・実習科目よりも「とても身についた」「まあ身についた」と回答した割合が高い傾向が見られる。特に国際教養学部の演習科目において、「とても身についた」「まあ身についた」と回答する割合が90%を超えておりと非常に高い数値となっている。

【I】この授業のあなたの取り組みについて、以下の項目にどの程度当てはまりますか？

【設問 I-1】この授業はシラバスに沿って行われていましたか？

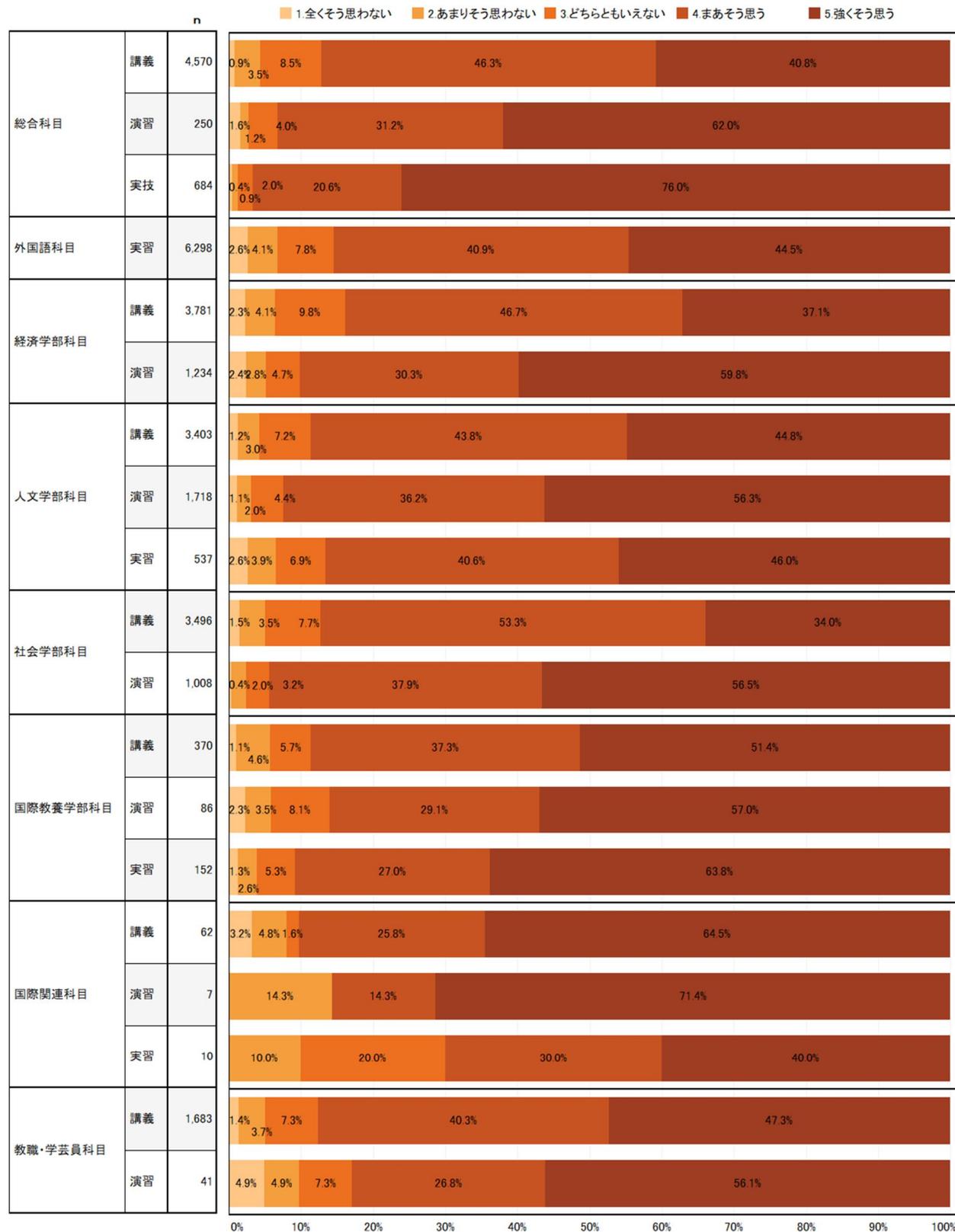


【設問 I-2】あなたはこの授業に関して、予習・復習など授業外での取り組みを1週間でどのくらい行ないましたか？

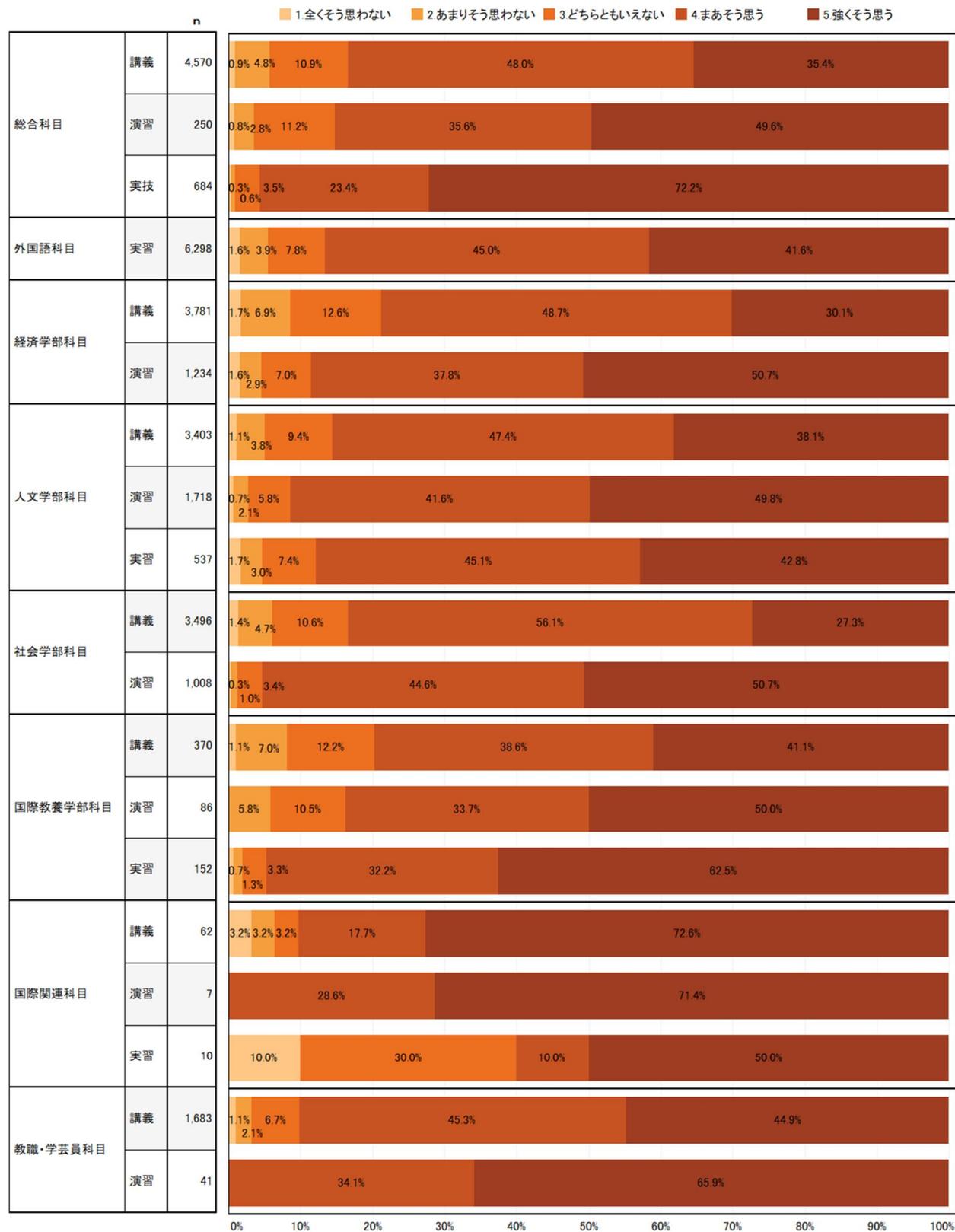


【Ⅱ】この授業の内容について、以下の項目にどの程度当てはまりますか？

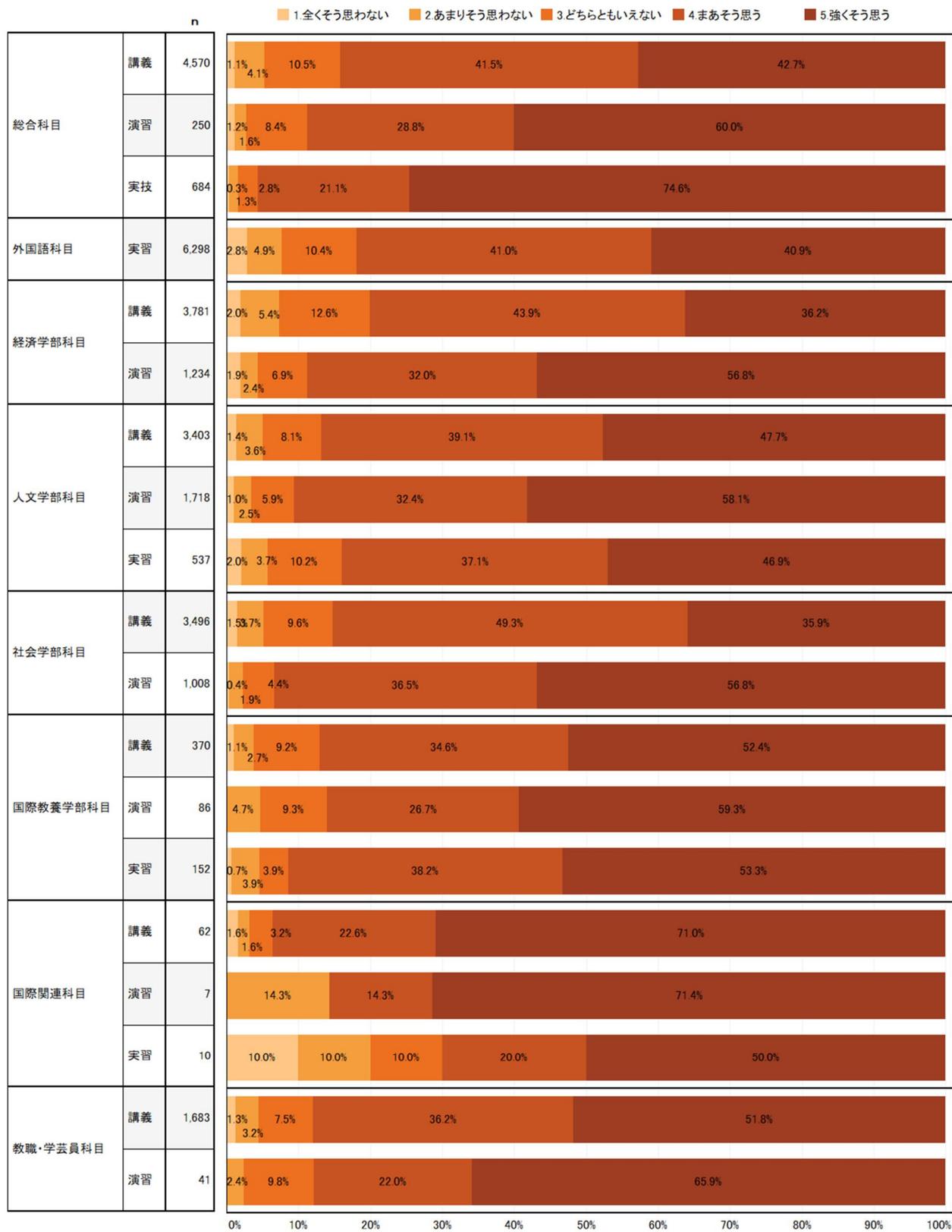
【設問Ⅱ-1】総合的にみて、この授業は満足できた



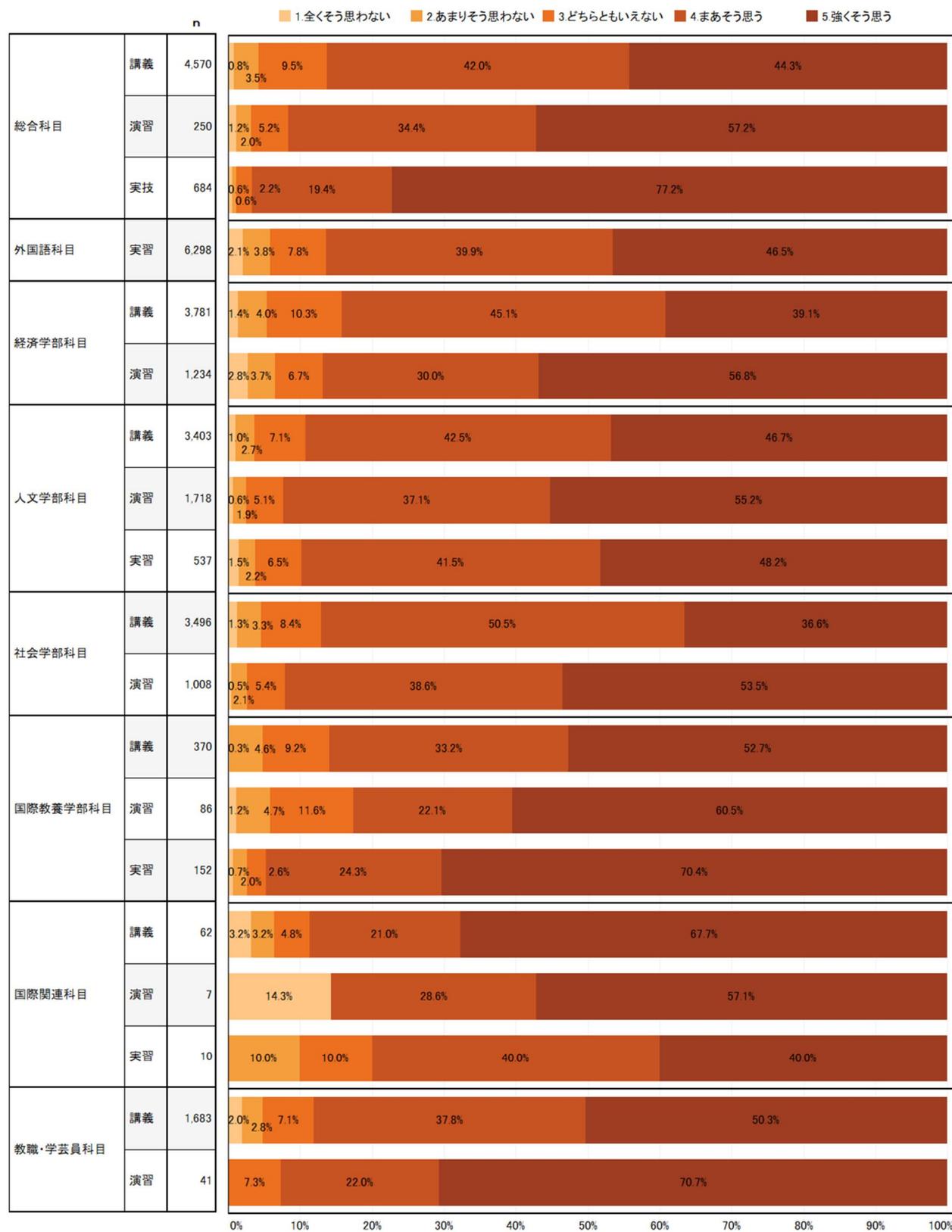
【設問Ⅱ-2】授業内容を理解できた



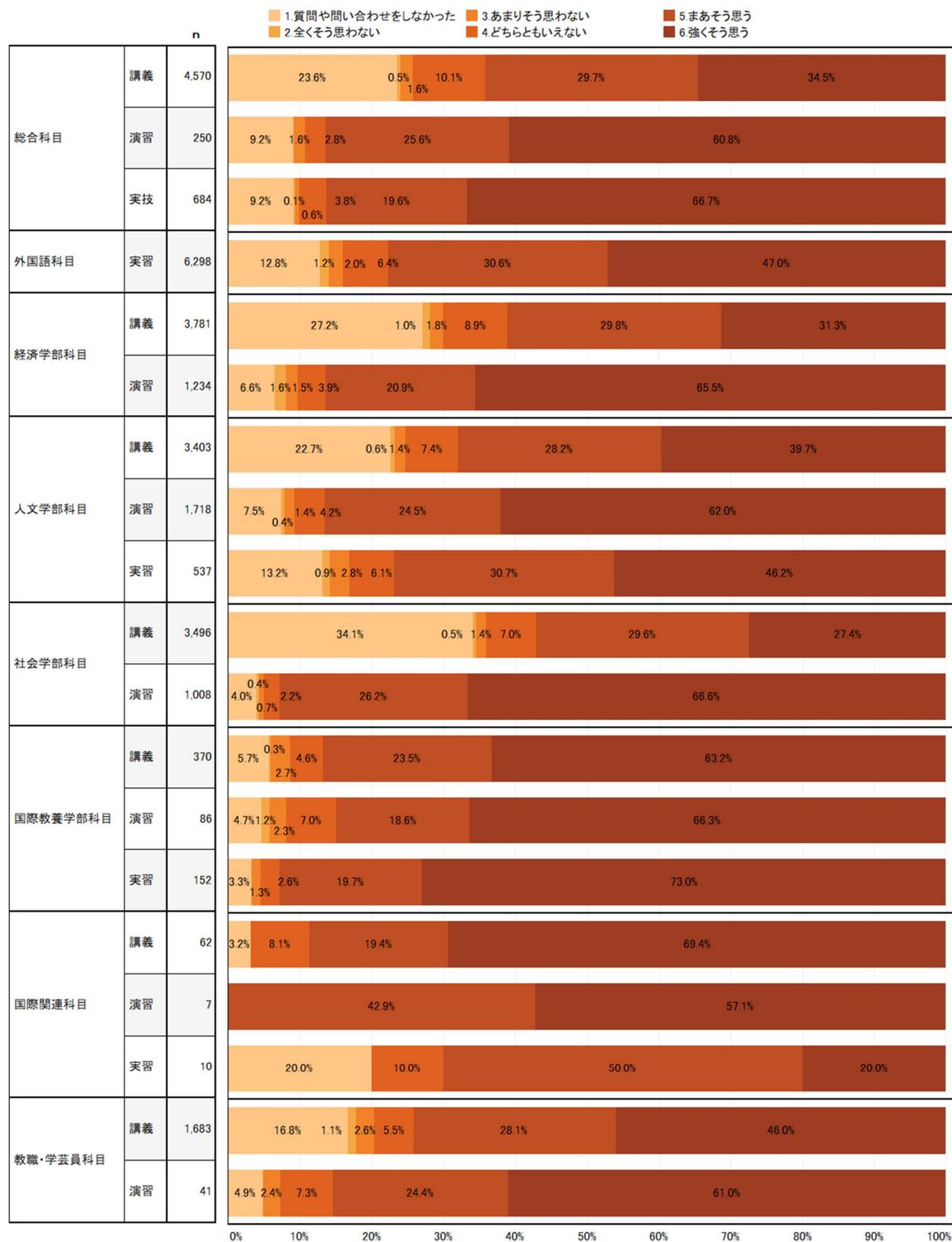
【設問Ⅱ-3】授業内容に興味を持てた



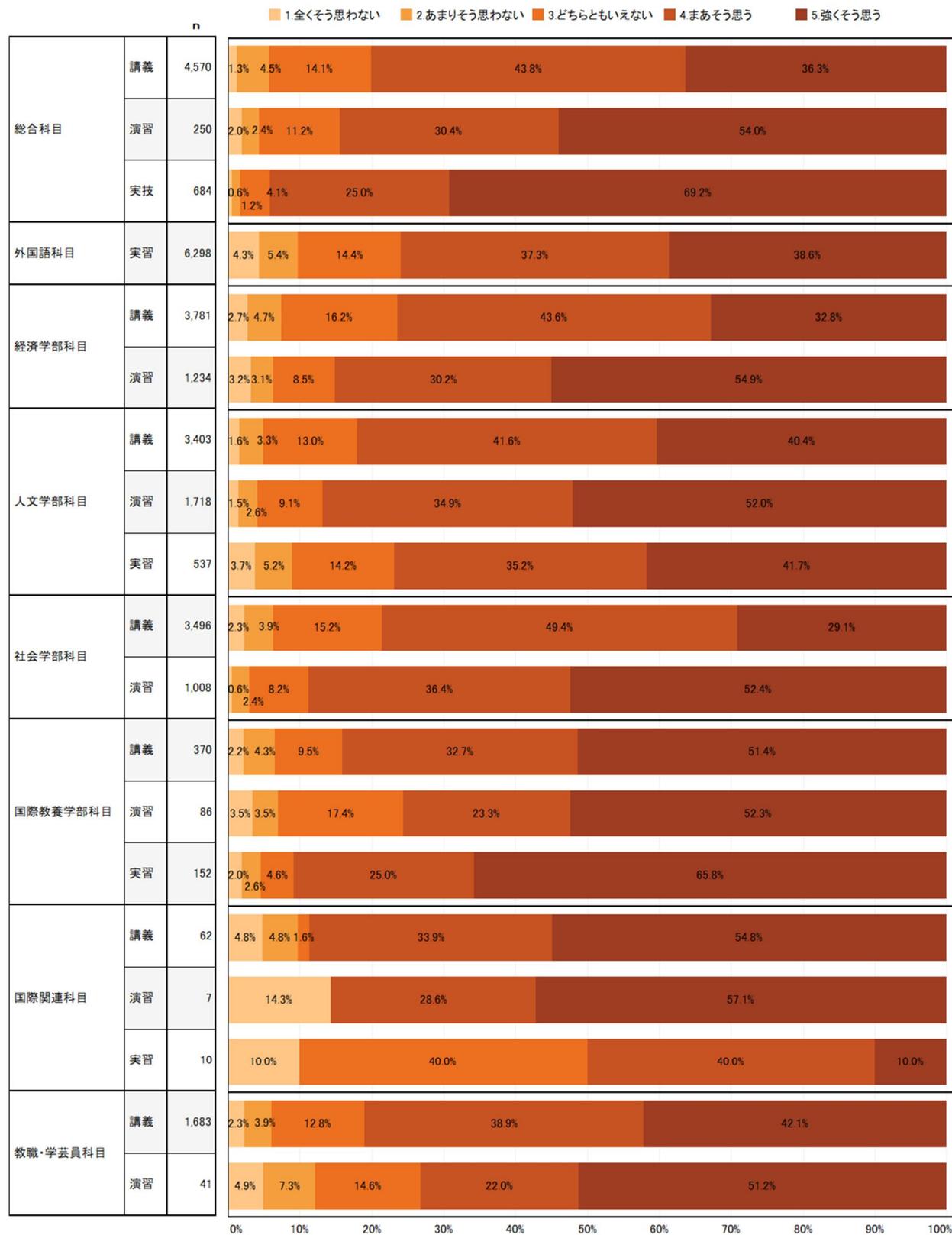
【設問Ⅱ-4】授業の進行速度は適切だった



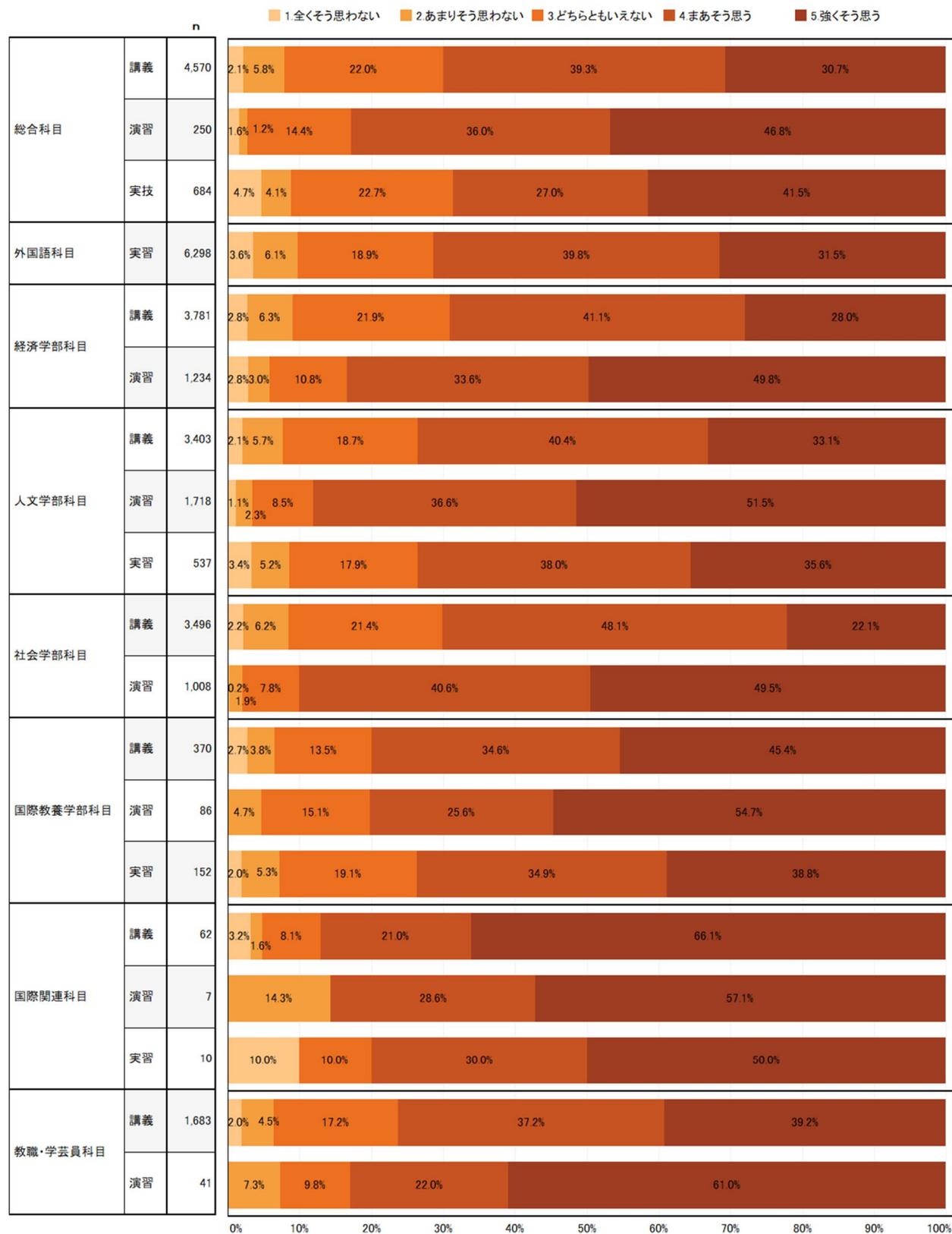
【設問Ⅱ-5】教員は質問や問い合わせに適切に対応してくれた



【設問Ⅱ-6】この授業を特に優れた授業として他の学生に勧めたい

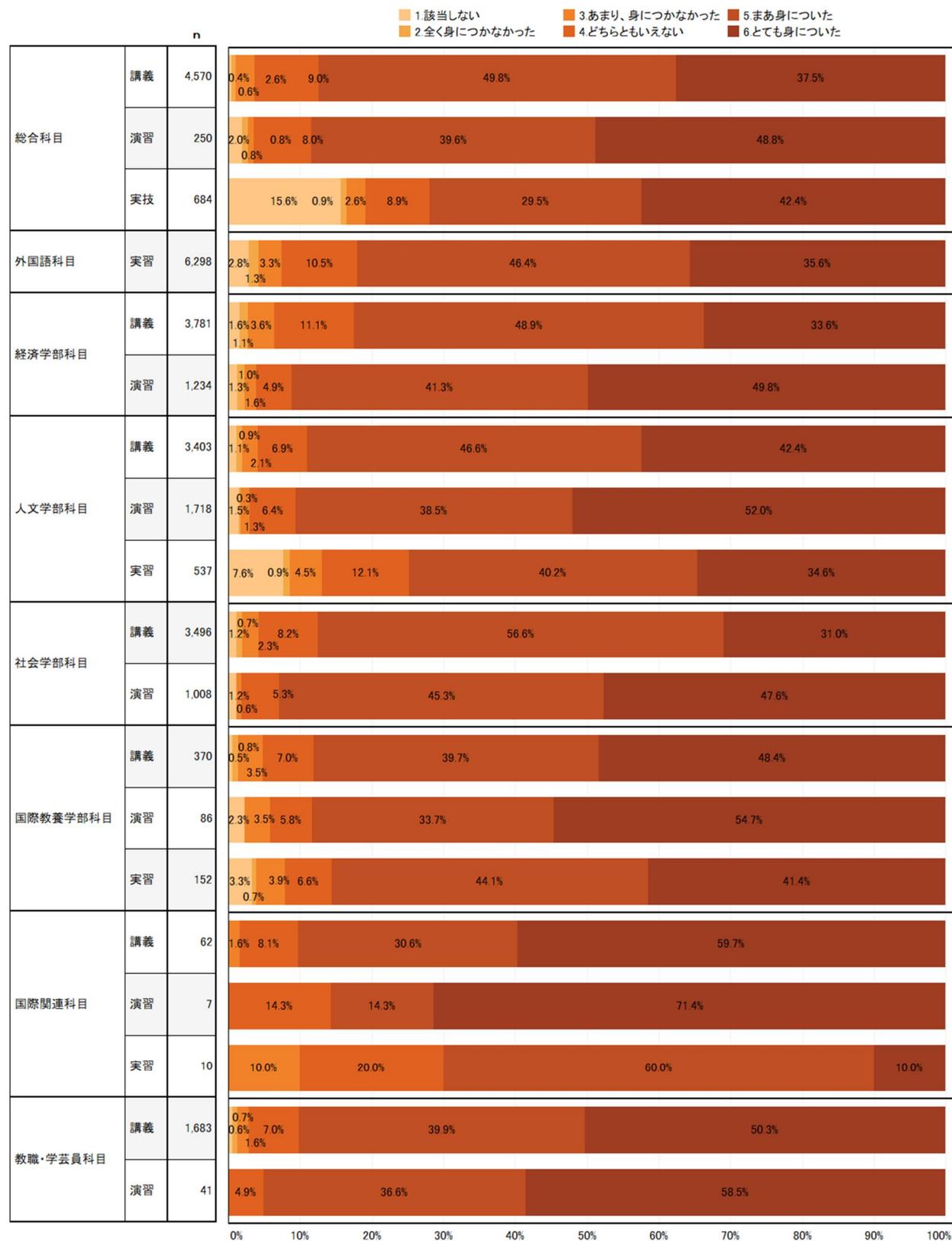


【設問Ⅱ-7】「自ら調べ自ら考える」ことが楽しかった

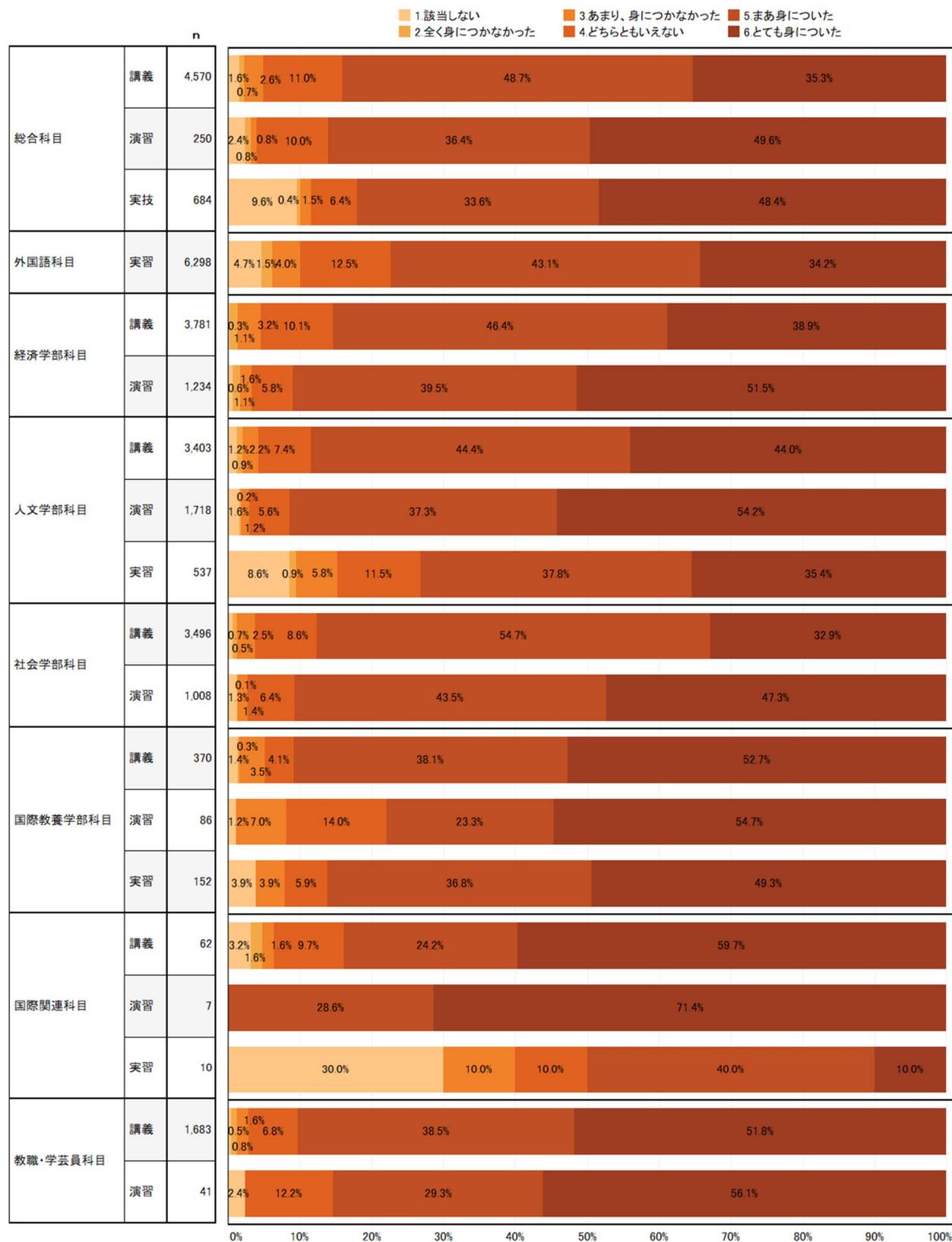


【Ⅲ】あなたはこの授業を受けることで、以下の知識・能力・態度が身につきましたか？

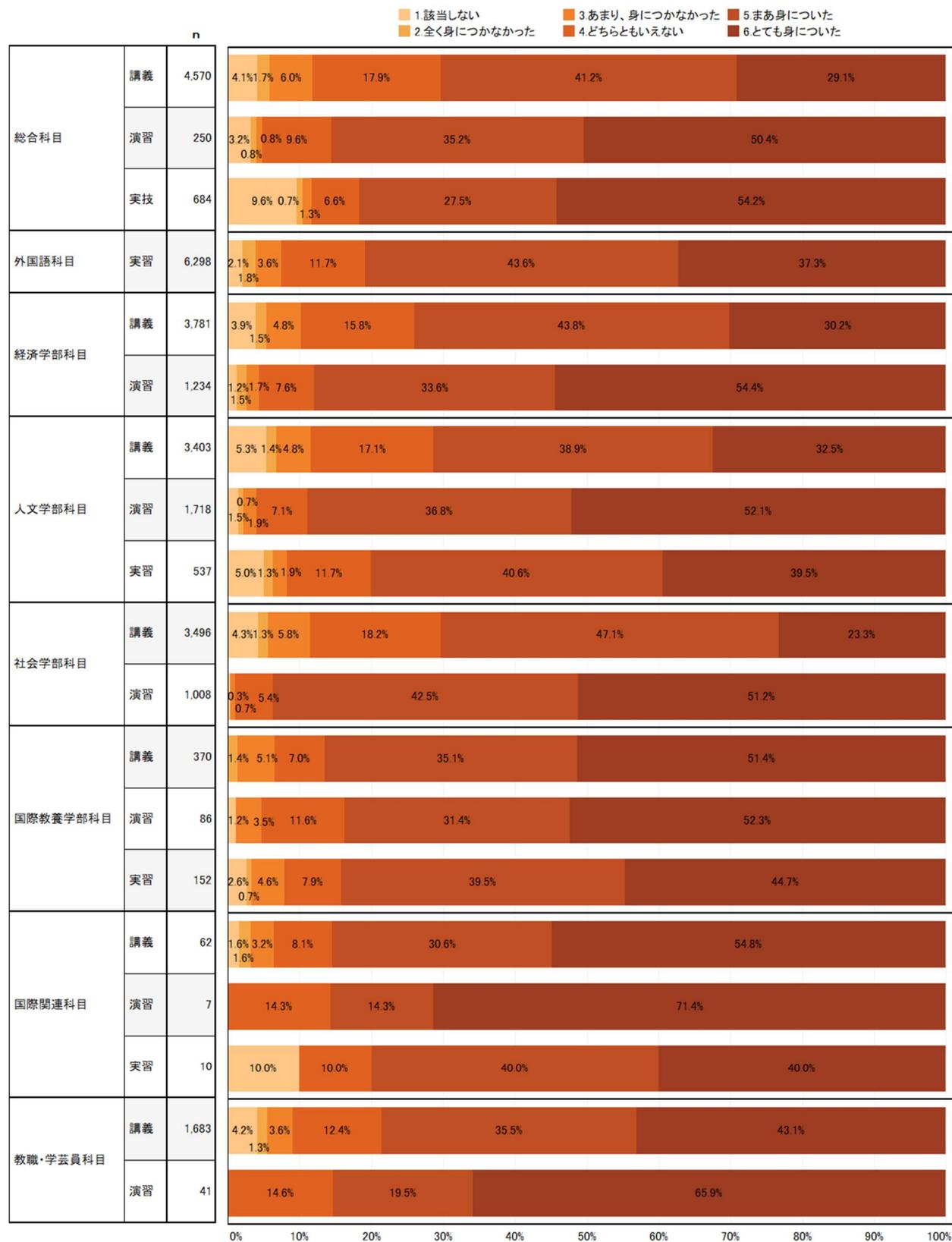
【設問Ⅲ-1】深い教養・幅広い知識



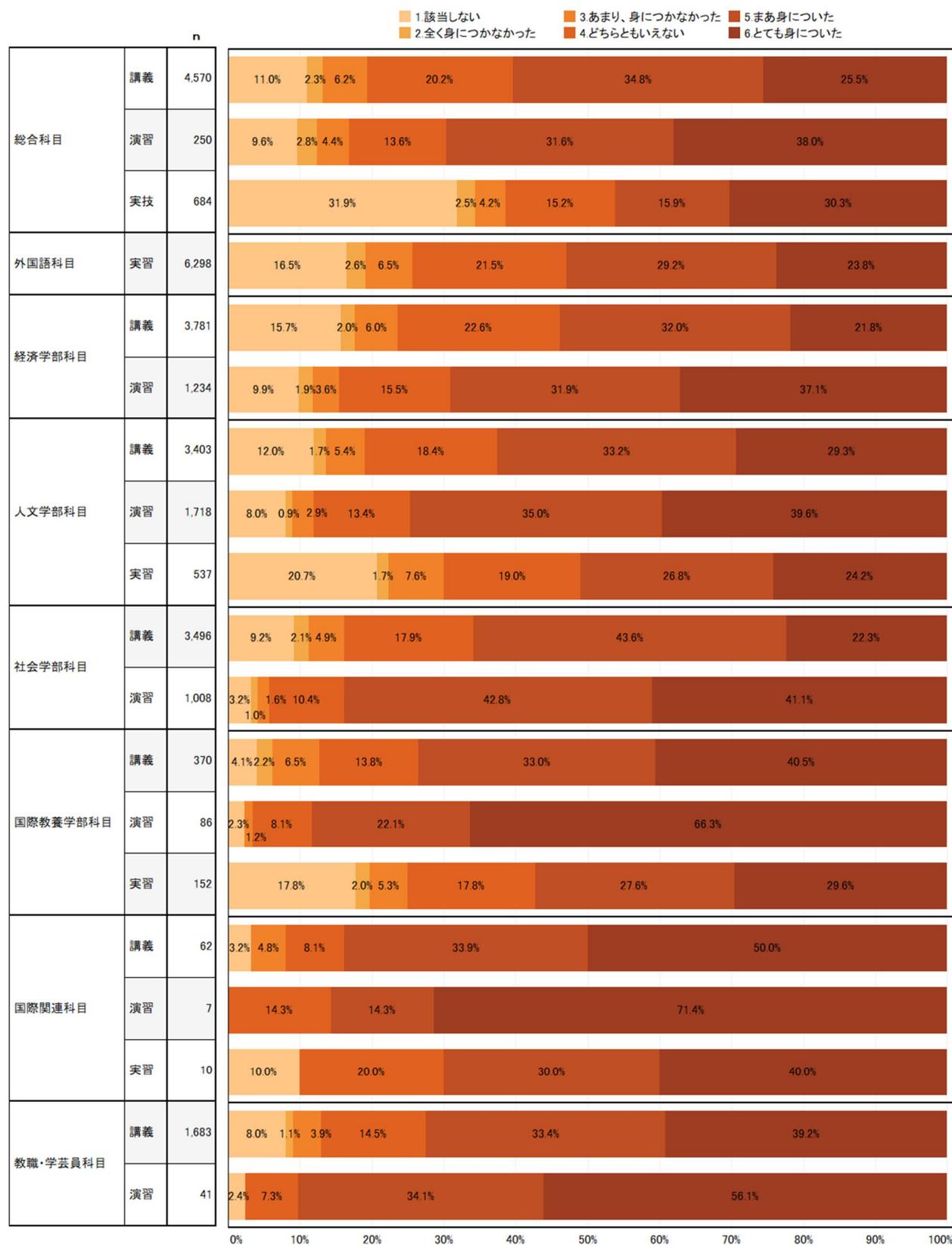
【設問Ⅲ-2】専門的知識



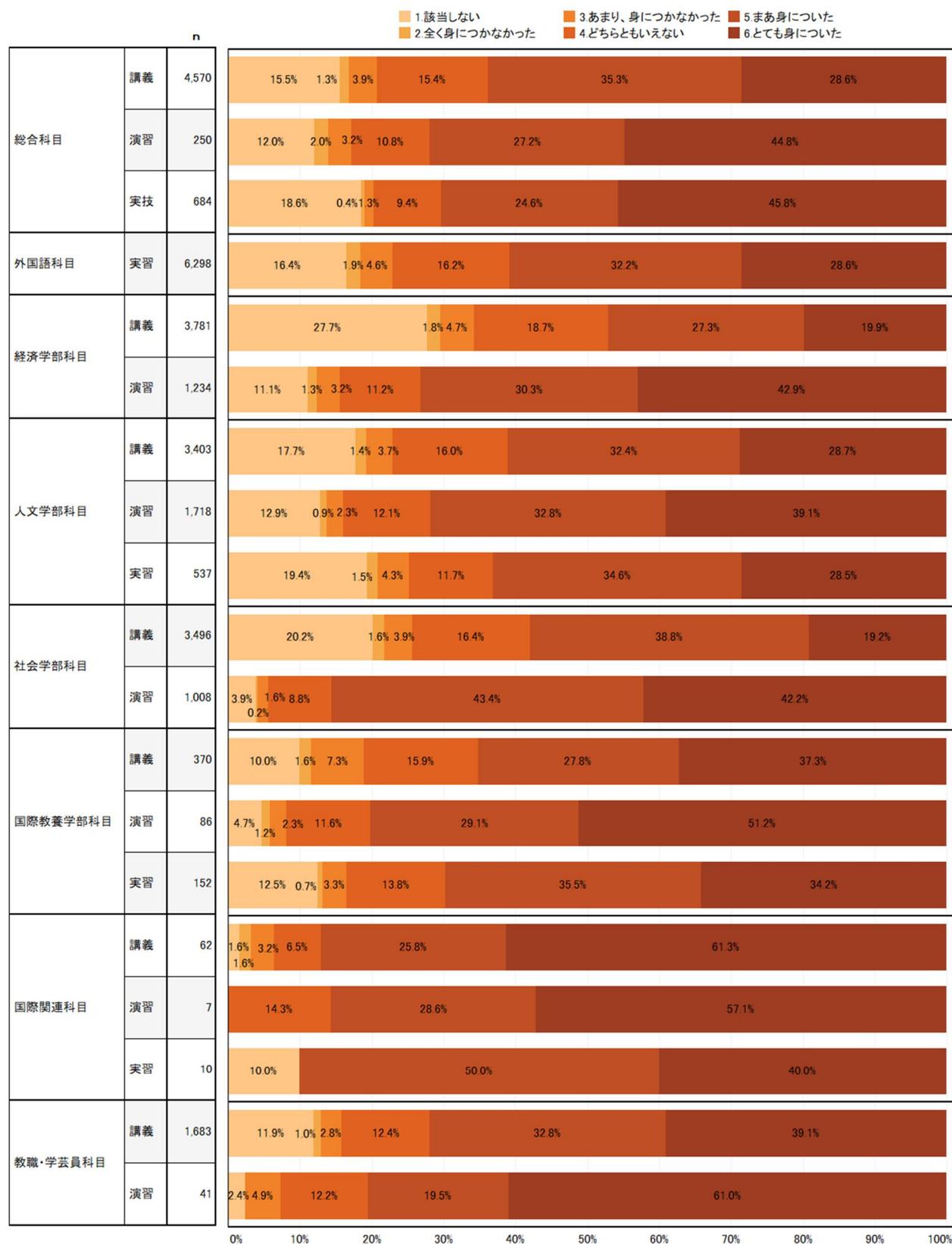
【設問Ⅲ-3】主体的な学習態度



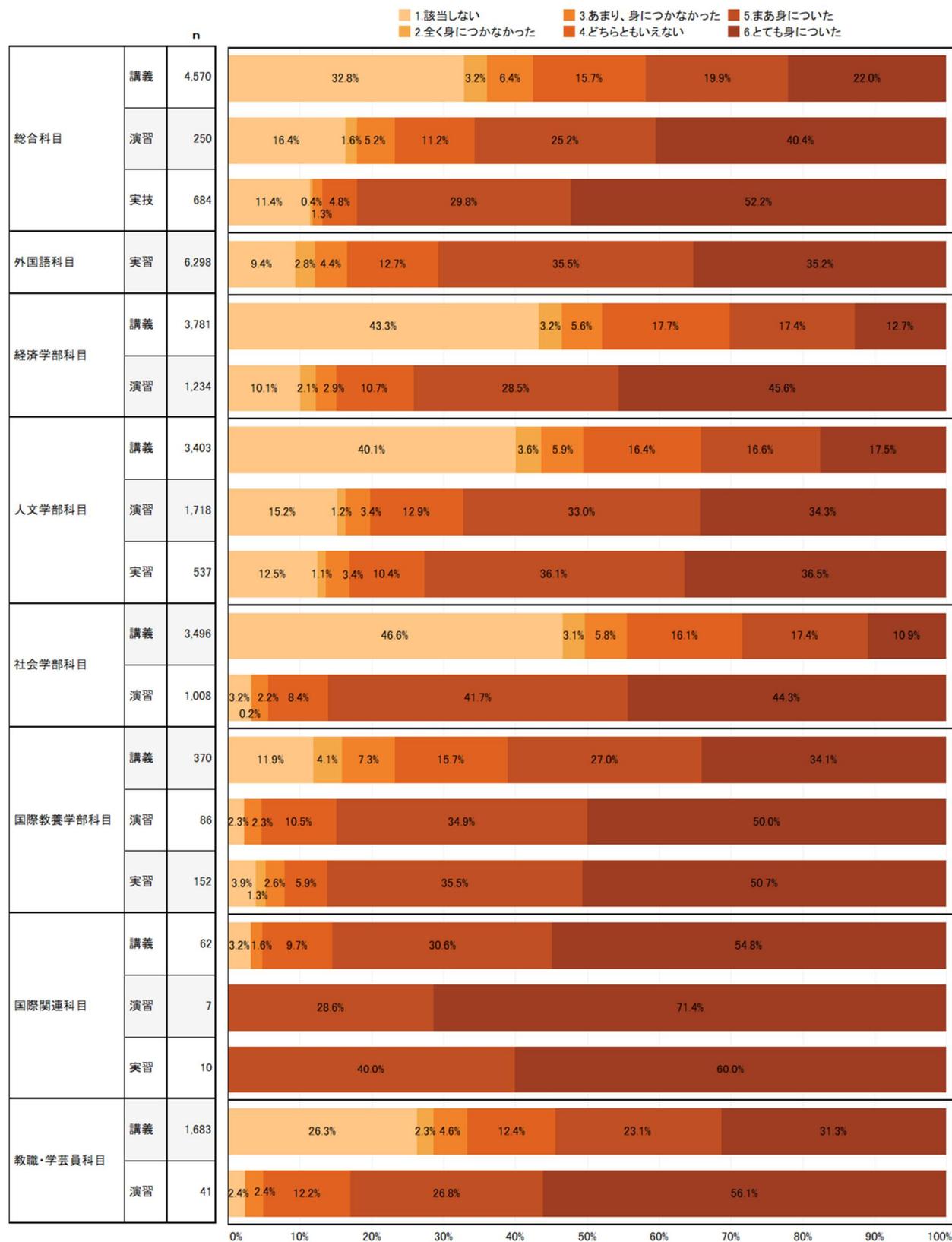
【設問Ⅲ-4】批判的な学習態度



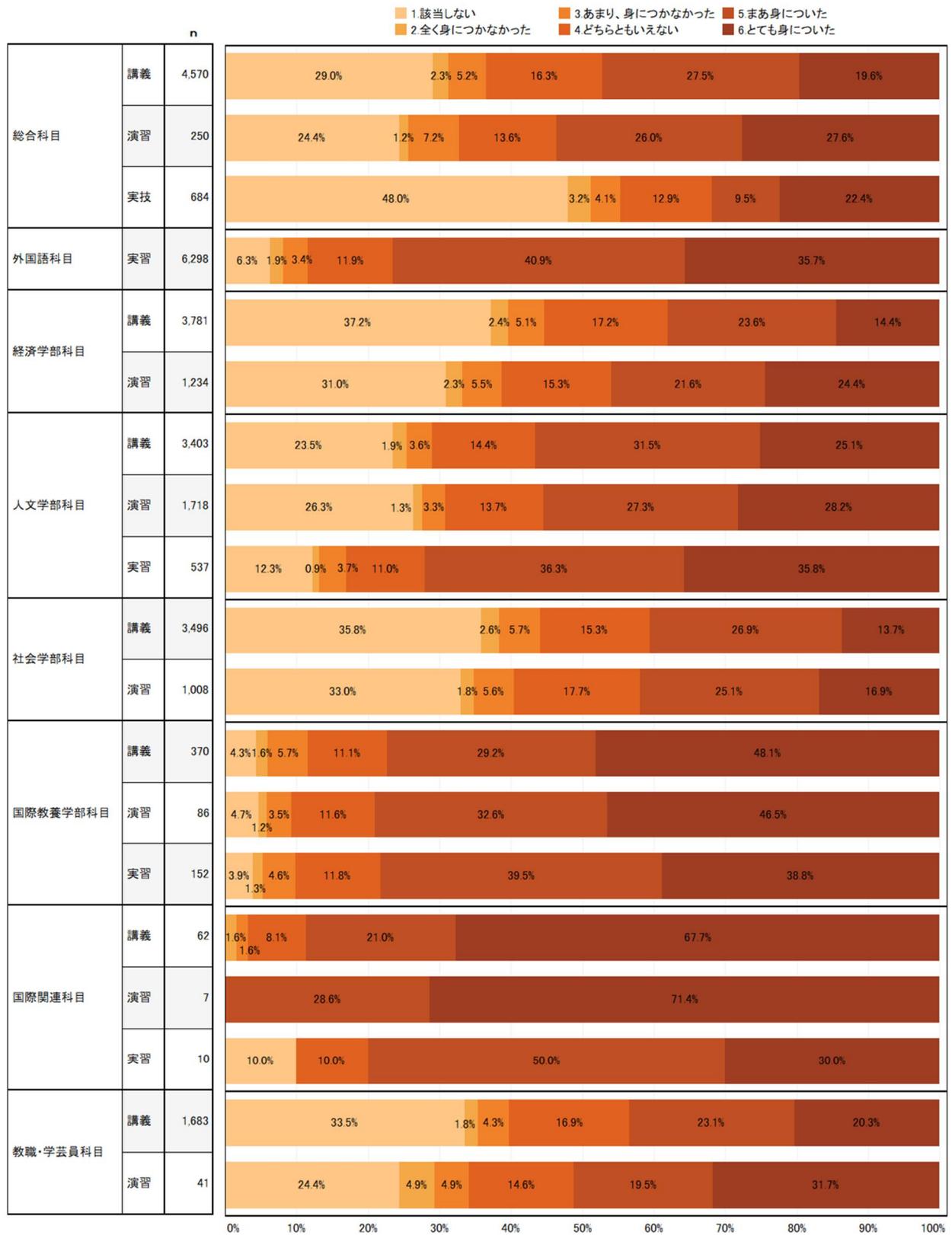
【設問Ⅲ-5】共感力



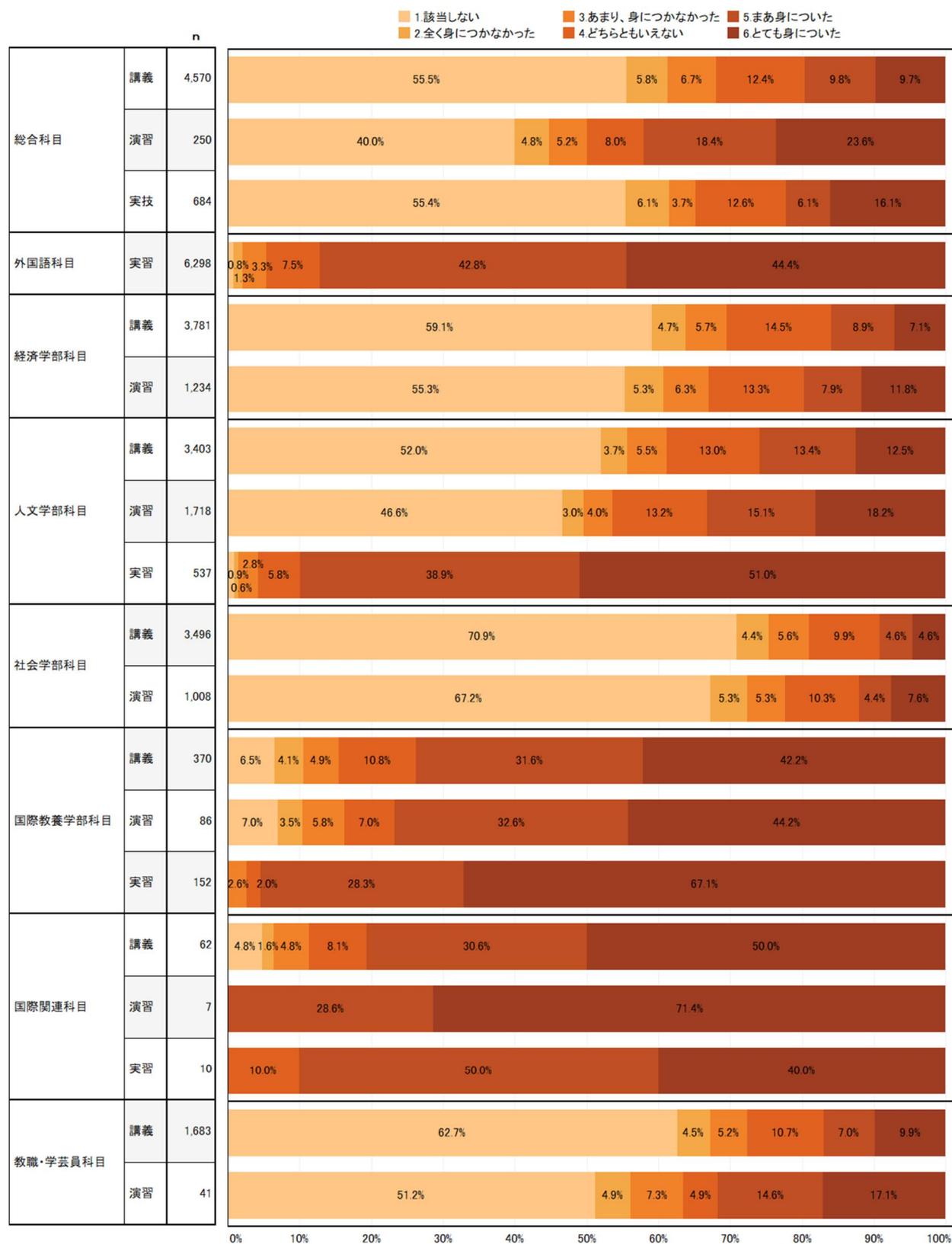
【設問Ⅲ-6】対話力



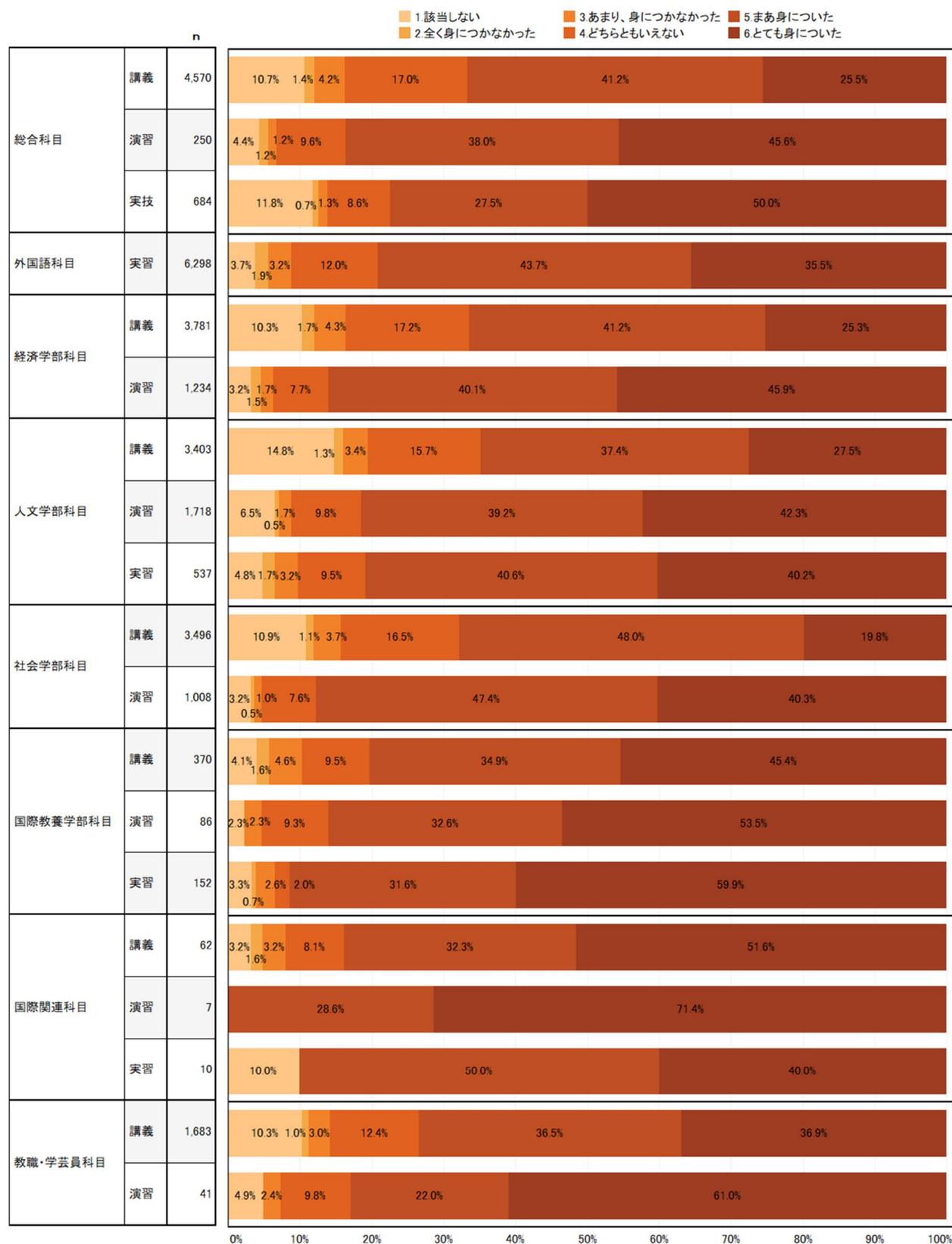
【設問Ⅲ-7】グローバルな思考力



【設問Ⅲ-8】外国語運用能力



【設問Ⅲ-9】学びを活用する実践力



1-4. 学生が選ぶベストティーチャー賞

本年度、全学部で実施した「学生による授業評価アンケート」の結果をもとに、学生の授業満足度が高い教員を選出し顕彰を行った。

総合満足度

評価対象

1. 講義科目のみ
2. 講義科目のクラス規模別の回答率を算出し、平均回答率の 90%以上の回答率があった授業
3. 回答者数が 10 名以上の授業

顕彰方法

各授業の履修者数等に応じて、下記の 5 クラスに分けて集計する。クラス別に設問:「総合的にみて、この授業は満足できた」及び「この授業を特に優れた授業として他の学生に勧めたい」のトップボックス(強く思う)の構成比を 1:1 で換算し、最上位であった教員を顕彰する。

- ◆小規模クラス 1(10~29 名)
- ◆小規模クラス 2(30~59 名)
- ◆中規模クラス(60 名~99 名)
- ◆大規模クラス(100 名以上)
- ◆6 時限オンデマンドクラス

自調自考賞

評価対象

1. 演習科目のみ
2. 演習科目の回答率を算出し、平均回答率の 90%以上の回答率があった授業
3. 回答者数が 10 名以上の授業

顕彰方法

設問:「自ら調べ自ら考えることが楽しくなった」及び「総合的にみて、この授業は満足できた」のトップボックス(強く思う)の構成比を 1:1 で換算し、最上位であった教員を顕彰する。

2024 年度の「学生が選ぶベストティーチャー賞」受賞者は 27 名が選出され、受賞者には学長より賞状と副賞が授与された。

2015 年度までは、3クラス・計 12 名のベストティーチャーを選出していたが、このベストティーチャー賞の受賞を励みにしたいという教員が多いことや、本学の「少人数教育」のメリットを生かした授業を少しでも多く顕彰したいという思いから、2016 年度よりクラスを1つ追加した。2018 年度には、「ゼミの武蔵」を代表するような授業を顕彰したいと演習科目を対象に「自調自考賞」を設けた。さらに、2021 年度にオンデマンド授業が恒常的に導入されたことに伴い、「6限オンデマンドクラス」を追加し、5クラス・計 25 名を選出することになった。

今後も様々な基準を設けてそれぞれの分野で活躍されている教員を表彰したいと考えている。一方で、回答率が低いことで評価対象とならない授業が多い点が課題として挙げられるため、今後の検討課題としたい。

2024年度「学生が選ぶベストティーチャー賞」受賞者

【総合満足度】

《小規模授業の部1(10～29名)》

※敬称略、五十音順

担当者	科目名
阪本 真一	各国金融論(アメリカ)
ジェフ・ワスティラ	英語ワークショップ1 [c]
曾根原 幹人	Business and Society
廣澤 聖士	コンピューティング応用B [2]
望月 康司	スポーツ実践6(卓球) [3]

《小規模授業の部2(30～59名)》

担当者	科目名
諫山 三武	コンピューティング基礎/メディア情報処理基礎
北田 依利	アメリカ文化論2
佐々木 亮太	スポーツ実践4(フットサル) [3]
ジョン・ハノン	Language Proficiency Test Preparation 1 [1]
トウイ・グエン	各国経済論(アジア経済2)/アジア経済2

《中規模授業の部(60～119名)》

担当者	科目名
池田 岳大	社会統計学1 [2]
川崎 剛	Japanese Studies 2
久保 佑馬	比較芸術論1
鈴木 暁子	金融各論(ファイナンシャルプランナー演習)
鈴木 正明	現代社会と経済

《大規模授業の部(100名以上)》

担当者	科目名
天野 由莉	アメリカ史1
遠藤 耕二	簿記演習2 [4]
小池 隆俊	スポーツとメディア
橋本 道雄	自然と生活のなかの物理 [1]

《6 時限オンデマンドクラス》

担当者	科目名
小川 敦	世界の言語と社会 [メディア授業]
小川 俊明	金融論1 [メディア授業]
中西 祐子	若者の社会学/若者文化の社会学 [メディア授業]
船木 恵子	社会思想の歴史 [メディア授業]

【自調自考賞】

担当者	科目名
エディー・ハーン	Global Studies 1st-Year Seminar 1
河合 康夫	教養ゼミナール [河合]
加藤 敦也	社会学方法論ゼミ1/社会学方法論ゼミ [加藤]
久保 佑馬	ヨーロッパ文化基礎ゼミナール1 [久保]